

令和5年度 第1回青少年指導関係運営協議会 会議録

日 時 令和5年6月20日（火）
午後2時40分から午後4時30分
場 所 木更津市役所朝日庁舎会議室B

出席委員 中島委員、佐久間委員、平野委員、薄葉委員、
高橋委員、荒木委員、西浦委員、遠藤委員、鈴木義信委員、
齋藤委員、水島委員、望月委員、鈴木清委員

- 1 開会
- 2 まなび支援センター所長挨拶
- 3 協議
 - ①令和5年度まなび支援センター青少年指導関係活動の方針について
 - ②情報交換
 - ③その他

【事務局から説明】

本協議会の委員の皆様におかれましては、今年度、委嘱2年目となりますが、異動等によりまして、新しく委員になられた方が6名いらっしゃいます。

略儀ながら、委嘱状を机の上に置かせていただきました。

任期は木更津市まなび支援センターの設置及び管理に関する条例第5条第3項によりまして、令和6年5月31日までとなっております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

会に先立ちまして、皆様にご承知願いたいことがあります。

本協議会は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公表されておりますが、本日の傍聴人はありません。また、会議録は木更津市のホームページ上で公開されることとなります。会議中は録音機により会議を録音いたしますのでご承知ください。

それではただ今から、令和5年度第1回木更津市青少年指導関係運営協議会を開催いたします。会議開催にあたり委員14名のうち、13名の出席により会議が成立いたしますことをご報告いたします。

この会の趣旨は青少年健全育成に係る取り組みを行っております本センターの運営等についてご意見を頂くと共に、関係機関等の取り組みをご紹介頂き、連携して青少年健全育成を図るための会議でございます。

それでは、今年度第1回目ということで、新しい方もいらっしゃいますので、お手元に配付してあります名簿順に簡単な自己紹介をお願いいたします。

自己紹介

それでは、協議に入ります前に、まなび支援センター難波所長よりご挨拶を申し上げます。

所長あいさつ

〈事務局〉

ありがとうございました。それでは、これより協議に入りたいと思います。

齋藤会長に座長をお任せいたします。よろしくお願いいたします。

〈齋藤会長〉

それでは、協議にはいります。

協議事項の①令和5年度木更津市まなび支援センター青少年指導関係活動の方針について、事務局説明願います。

〈所長〉

令和5年度まなび支援センター青少年指導関係活動の方針について説明

〈齋藤会長〉

事務局からの説明について、ご質問・ご意見等ございましたらお願いします。

ご質疑等ないようですので、協議事項②情報交換に移りたいと思います。

〈佐久間委員〉

今年度、他市より転入してきたので木更津の様子をまだ伺っている感じですが、最近、視覚で分からない事が増えたと思います。恐らく、この10年ぐらいで殴った蹴ったというものはなくなってきている。

特に長欠生徒が増え、そういった子と繋がりを持つのが非常に難しくなっている。昔、学校は行くものであったが、今は、行かないと強い意志を持って決めた子もいるので、その子の気持ちに寄り添っていきたい。ゴールは将来どうするかで、学校は通過地点でしかないので、保護者と面談して原因がどこにあるのか、ひとつではないが、もし、学校にあるのであれば、不安要素は取り除き、本人と話し、その子、その子に寄り添った対応が必要となります。例えば、まなびの保障として、タブレットを使ってリモートの授業や、チャットなども必要です。

分かりづらくなった事として、闇バイトが増えたことも挙げられる。SNSで知り合った名前も知らない相手と犯罪にかかわるとは、どうゆう事かと教えなければならない。けれど、スマホを持たせるのは保護者なので、使い方や約束事を決めるべき。困ったことになったら、大人に助けを求める事も教えなければならないと思う。

〈平野委員〉

個人的な意見にもなってしまいますが、定時制は昔は仕事に行ってから学校に来る子や、まなび直しの大人が通っていたが、今は違う。小中学校時代、学校になかなか行けてなかった子や、何か問題を抱えた子が将来に向けて頑張っている。子供同士の人間関係が難しい時もあるが、子供は落ち着いている。困り感のある子もいるが、通えていることにほっとしている。卒業したら社会に出ていくので、ICTも活用したい。子供達も興味があるが、ルール作りが必要。全日制は女子高なので、不審者情報が増えている気がする。夜の遅い時間に駅周辺に先輩がいると言っていた注意が必要。

〈薄葉委員〉

マスクについて、男子生徒は外しているが、女子生徒は外せない。顔を見られるのが恥ずかしいと言っている。3年生はずっとマスクをしていて、顔が分かりづらい。顔が見えて話せるというのは、やはり良いと実感している。マスクをしたままだと、通学や体育の時間は危険を伴う可能性がある。

不審者情報について、盗撮や声を掛けられるなどが増えている。県北の学校で、高校生

にも薬物が広がってきているとの情報提供があり、危機感を感じる。

〈高橋委員〉

君津児童相談所での児童虐待の受理件数、令和3年643件。木更津が半分近くだが、人口に対して多いので仕方ない。一時保護のプランで親族が入るものがあるが、前の世代からも虐待を受けている世代間伝達が多い。虐待で一番多いのが心理的虐待43%、次が身体的虐待は約30%、ネグレクトは約25%。虐待者は義父が多いと思われがちだが、実母が54%、義父母は数%である。

被虐待者は小学生が39%、3歳から未就学児が20%、次が3歳未満と続く。一時保護にこの1、2年の間、高校生が増えているが、それは自身がSOSを出して良いと思える子が増えた為だと、実際に子供達と話をしていると感じた。

また、ゲーム依存からの虐待が増加傾向だが、ADD、ADHDなどの対人関係が難しい子のはまりやすい傾向がある。

〈荒木委員〉

最近、不審者情報が多く心配しているところ。

〈西浦委員〉

今まで委員の方の話は警察にも関する事が多い。3月からの着任で少年事件は忙しい方で、成人年齢18歳になり、特定成年の19、20歳の事件が多い。窃盗、傷害、詐欺等グループでの犯罪で再犯率も高い。最初は小さな万引きから再犯を繰り返すので、早くから目を摘む必要がある。

児童虐待関係では、現在、家庭内のトラブルにも警察が積極的に入る。毎晩のように夫婦ケンカなどの通報があったりするが、子供の前だと心理的虐待となり児童相談所に通告にもなる。再度トラブルにならないように、当事者を離して関係者に協力してもらい解決につなげる。危険な案件は一時保護もする。

未成年がSNSで知り合った人と行方不明になる事件は、交友関係から探しづらく、とても難しい。そして、警察は一時的なもので、根本的な解決にはならない。他の機関とも協力して解決に繋げたい。

電話詐欺や自転車盗難が増加傾向。闇バイトで受け子になった特定成年が逮捕された。

〈遠藤委員〉

全国的に少年件数は減っており、少子化の影響もあるかと思うが、犯罪に対する見方が厳しくなっているのと、コロナ禍で行動の変化があり、犯罪に接する機会も減っているのではないかと。

再犯を繰り返す子には矯正プログラムの工夫が課題となっている。昔の人間関係で再犯に繋がってしまう子が多い。

SNSを介した犯罪では、特に画像の送受信を巡るもの。親密な間柄になる、個人情報のある程度共有し合う関係となり、断りづらい状況を作り、性的な要求がエスカレートするなどが見られる。

少年達には、その犯行が法的にどのような責任になるのか、丁寧に教えていかなければならない。

〈齋藤会長〉

各中学校区ごとに活動し、月に一度、パトロールをしているが特に問題はない。

理事会などでもSNSに関する事が1番の懸念事項としてでている。あらゆる事が出来てしまうので、使い方次第で犯罪にも繋がってしまう。社会全体での教育の必要性を感じてる。

今、街中に子供がいないので、子供がいるイベントや、子ども食堂などで、子供達と情報交換をして頂きたい。

〈鈴木義信委員〉

木更津警察署少年警察ボランティアは、生活、防犯指導を防犯指導員として、月2回袖ヶ浦駅、木更津駅周辺を午後7時から街頭指導を行っている。港まつりでも行う予定。ソフトバレー大会などで懇親を深めたい。

〈水島委員〉

青少年相談員になり12年となるが、青少年相談員とは何かと考える。子供から相談されることはなので、こちらから子供に話しかける。任期は3年で55歳までのボランティアなので、なかなか心の闇までは見えにくい。子供が笑顔になれる活動を考える。一緒に花を植える活動なども地域の人と一緒にやると、そこで話をすると、ちゃんと大人の話しが聞ける。中学生が、先生でも、親でもない大人になら話せる機会があるかもしれない。まずは、名前を知ってもらうことから始めている。

〈望月委員〉

初めての参加なので、親目線からの事で、子供達がマスクを外してお互いの顔が判るようになってきた。でも、今は、ゲームも顔も知らない人達と敵を倒しているのが、最近の少年犯罪と重なってしまう。名前も顔も知らない人達と倒す、盗む。

GPSで位置情報が判るアプリなども平気で使っている。ダメだと言ったり、ロックをかけても、子供の方が上をいっているので、すり抜けてしまう。

〈鈴木清委員〉

子ども会の加入率は7%程度なので、やり方を模索している。キャンプの募集をかけた時、メールでの申し込みが多かった。

〈中島副会長〉

現在、SNSで色々と個人を特定する事ができてしまい、名札からインスタグラムで特定されたなどの話を聞いた。

また、ChatGPTなどの生成AIが普及し、考える土台がないとAIに振りまわされてしまう。主体性が必要となる。提出されたレポートの中にもAIを使って書いたのではないかと思われるものがあつた。

幼児教育での自己肯定感の重要性を思う。小さい時から劣等感を持っていると、大きくなって犯罪グループの中での安心感ができてしまうのか。幼児教育は遊びを通して行うものなので、勉強ができたできないではなくて、どんな自分であっても大切にされていると感じられるかが重要。

〈齋藤会長〉

ありがとうございました。他にご意見等はありませんでしょうか？共有しておきたいことなど、どうでしょうか。よろしいでしょうか。

時間の制限もございますので、事務局へお返しして、私の方は終わりにします。

〈事務局〉

ありがとうございました。

それでは、次回以降の会議についてご説明申し上げます。次回第2回の運営協議会は10月17日（火曜日）に開催の予定で、協議内容として、まなび支援センターの中間報告でございますが、書面開催等の方法を考えております。ご意見等ございましたら、神子までお願いいたします。

また、メールアドレスをまだお知らせ頂いていない場合は、お手元にあるメールアドレスのご提出書に記載をお願いいたします。

なお、第3回は、令和6年2月13日の開催を予定しています。会場は、同じく市役所朝日庁舎を予定しています。

委員の皆様方におかれましては、今後とも青少年健全育成のために、それぞれの立場でご尽力いただきますとともに、当センターの運営に、ご指導ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。ご協力ありがとうございました。